

北見市における景気動向調査報告書

< 第 II 四半期 >

北見商工会議所

I. 調査要領

1. 調査時点及び調査対象期間

(1) 調査時点 平成27年10月9日

(2) 調査対象期間 平成27年7月～9月期実績および平成27年10月～12月期見通しについて調査した。

2. 調査対象

北見市に所在する企業を対象に、製造業、建設業、卸売業、小売業、サービス業の5業種150社を往復ハガキにより調査した。

3. 回収状況

業種 \ 企業数	対象企業数	回答企業数	回答率
製造業	30社	22社	73.3%
建設業	30社	24社	80.0%
卸売業	30社	23社	76.7%
小売業	35社	25社	71.4%
サービス業	25社	16社	64.0%
合計	150社	110社	73.3%

注) 本調査結果の中で、D・I値とある記号は、デフュージョン・インデックス(景気動向指数)で好転企業割合から悪化企業割合を差し引いた値を示す

II . 概 況

《 全 体 の 動 き 》

平成27年度第II四半期<7月～9月>の北見市における業況は、前年比で「好転企業」27.2%、「悪化企業」36.4%、「好転」から「悪化」を差し引いたD・I値は△9.2となっており、前年同期比(△25.0)との比較では15.8ポイントの好転傾向を示しました。また、前期調査<27年度第I四半期>と比較してみると前回△18.8→今回△9.2と9.6ポイント好転を示しています。

今回の業況を業種別で見ると、製造業D・I値△13.7、建設業D・I値△29.2、卸売業D・I値4.3、小売業D・I値△16.0、サービス業D・I値18.7となっており、前年同期調査と比較すると、卸売業で58.5ポイント、サービス業で25.4ポイント、小売業で17.4ポイント好転している一方、建設業で、11.3ポイント、製造業で9.1ポイントの悪化傾向となりました。

特に卸売業については前年同期と比べ60ポイント弱の大幅な好転を示し、D・I値がマイナスからプラスに転じる結果となりましたが、予断を許さない状況となっています。

また、サービス業・小売業好転の要因としては、8月22日に発売された北見市プレミアム商品券による消費増加があったものと思われます。

来期の見通しを全業種で見ると「好転企業」16.4%、「悪化企業」38.2%でD・I値△21.8と、前年同期見通し(△31.0)に比べ9.2ポイントの好転となり、回復傾向が見えつつある来期見通しとなっています。

《 業 種 別 の 動 き 》

1) 製 造 業

生産高

前年比で「増加企業」27.3%、「減少企業」40.9%、D・I値△13.6と前年同期と同じ値を示しました。

採算

前年比で「好転企業」18.2%、「悪化企業」31.8%、D・I値△13.6と前年同期に比べ4.5ポイントの好転となりました。

来期見通し

業況D・I値△22.7、生産高D・I値△13.7、資金繰りD・I値△9.1と、前年同期に比べ全て好転傾向を示し、予断を許さないものの明るさが見える来期見通しとなりました。

2) 建 設 業

完成工事高

前年比で「増加企業」20.8%、「減少企業」58.4%、D・I値△37.6と、前年同期に比べ5.5ポイントの悪化傾向を示しました。

採算

前年比で「好転企業」16.7%、「悪化企業」45.8%、D・I値△29.1と、前年同期に比べて4.1ポイントの悪化傾向を示しました。

来期見通し

業況D・I値△29.1、完成工事高D・I値△25.1、資金繰りD・I値△4.1と前年同期の高いマイナス値から全て好転傾向を示し、予断を許さないものの明るさが見える来期見通しとなりました。

3) 卸売業

売上高

前年比で「増加企業」43.5%、「減少企業」34.8%、D・I値8.7と前年同期と比べ37.9ポイントの大幅な好転傾向を示し、マイナスからプラスに転じる結果となりました。

採算

前年比で「好転企業」39.2%、「悪化企業」30.4%、D・I値8.8と前年同期に比べ46.3ポイントの大幅な好転傾向を示し、マイナスからプラスに転じる結果となりました。

来期見通し

業況D・I値△17.4、売上高D・I値△13.1、資金繰りD・I値13.1と前年同期に比べ全て好転傾向を示し、特に資金繰りでマイナスからプラスに転じる結果となりました。

4) 小売業

売上高

前年比で「増加企業」16.0%「減少企業」36.0%、D・I値△20.0と前年同期に比べ9.7ポイントの好転傾向を示しました。

採算

前年比で「好転企業」12.0%「悪化企業」24.0%、D・I値△12.0と前年同期から25.1ポイントの好転傾向を示しました。

来期見通し

業況D・I値△24.0、売上高D・I値△24.0、資金繰りD・I値△24.0と前年同期と比べ全てのD・I値が若干好転傾向を示しました。

5) サービス業

売上高

前年比で「増加企業」37.5%、「減少企業」25.0%、D・I値12.5と、前年同期に比べ12.5ポイントの好転傾向を示し、プラスの値となりました。

採算

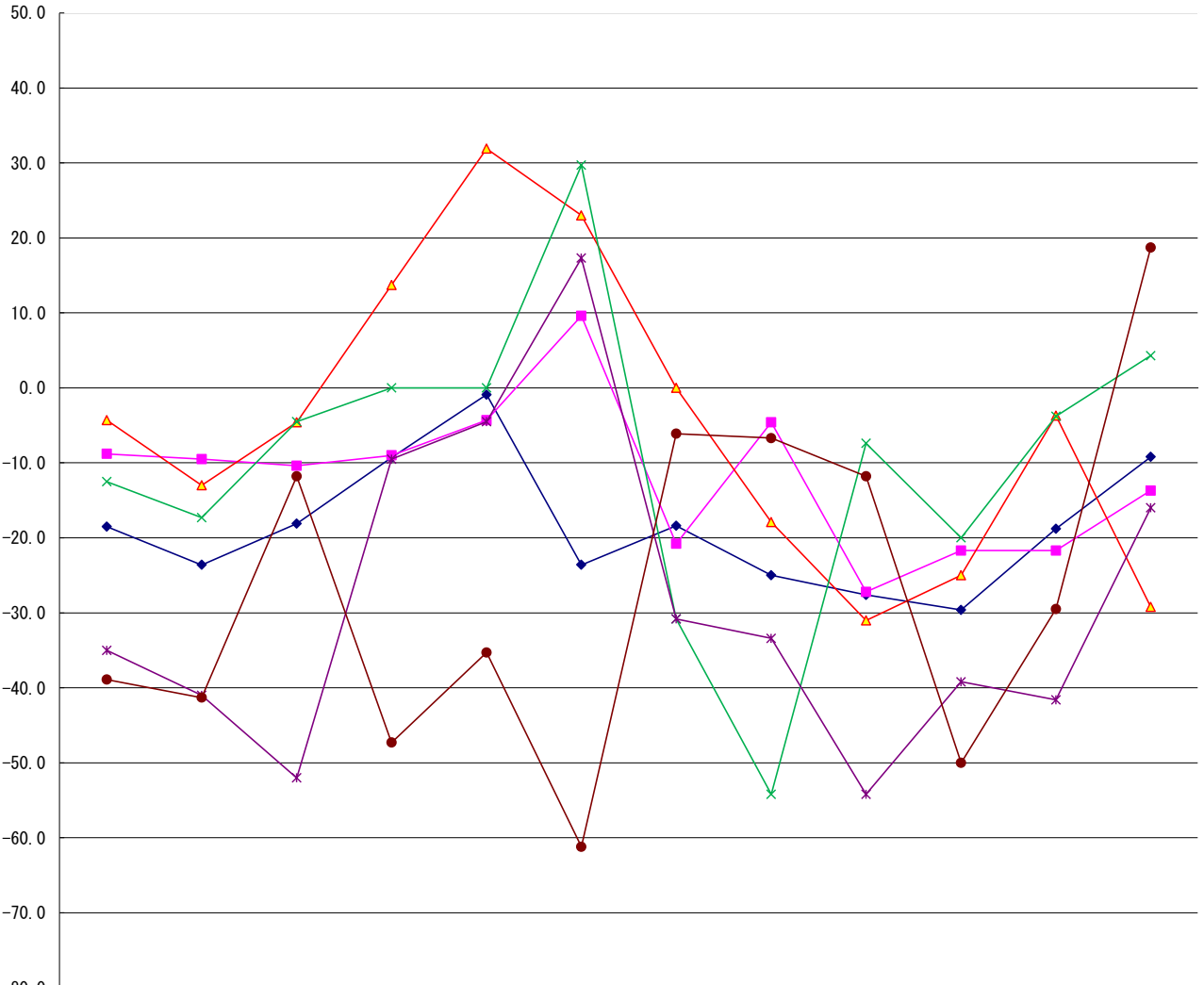
前年比で「好転企業」18.8%、「悪化企業」43.7%、D・I値△24.9と前年同期に比べ1.8ポイントの好転傾向を示しました。

来期見通し

業況D・I値△12.4、売上高D・I値△18.7、資金繰りD・I値△12.5と前年同期に比べ業況・売上高は好転傾向を示しましたが、資金繰りは悪化傾向を示しました。

業況（前年同期比）

◆ 全業種 ■ 製造業 ▲ 建設業 × 卸売業 * 小売業 ● サービス業



	24.10~12 24年度Ⅲ	25.1~3 24年度Ⅳ	25.4~6 25年度Ⅰ	25.7~9 25年度Ⅱ	25.10~12 25年度Ⅲ	26.1~3 25年度Ⅳ	26.4~6 26年度Ⅰ	26.7~9 26年度Ⅱ	26.10~12 26年度Ⅲ	27.1~3 26年度Ⅳ	27.4~6 27年度Ⅰ	27.7~9 27年度Ⅱ
◆ 全業種	-18.5	-23.6	-18.1	-9.3	-0.9	-23.6	-18.4	-25.0	-27.6	-29.6	-18.8	-9.2
■ 製造業	-8.8	-9.5	-10.4	-9.0	-4.3	9.6	-20.8	-4.6	-27.2	-21.7	-21.7	-13.7
▲ 建設業	-4.3	-13.0	-4.6	13.7	31.9	23.0	0.0	-17.9	-31.0	-25.0	-3.7	-29.2
× 卸売業	-12.5	-17.3	-4.5	0.0	0.0	29.7	-30.8	-54.2	-7.4	-20.0	-3.8	4.3
* 小売業	-35.0	-41.0	-52.0	-9.5	-4.5	17.3	-30.8	-33.4	-54.2	-39.2	-41.6	-16.0
● サービス業	-38.9	-41.3	-11.8	-47.3	-35.3	-61.2	-6.1	-6.7	-11.8	-50.0	-29.5	18.7

業 種 別 経 営 上 の 問 題 点

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
製 造 業	諸 経 費 増	得 意 先 減 少	人 材 不 足	同業者間の競合	人 件 費 増
建 設 業	人 材 不 足	諸 経 費 増	人 件 費 増	得 意 先 減 少	同業者間の競合
卸 売 業	諸 経 費 増	得 意 先 減 少	同業者間の競合	人 材 不 足	人 件 費 増
小 売 業	同業者間の競合	得 意 先 減 少	諸 経 費 増	人 材 不 足	人 件 費 増
サービス業	諸 経 費 増	人 件 費 増	人 材 不 足	同業者間の競合	得 意 先 減 少
合 計	諸 経 費 増	人 材 不 足	同業者間の競合	得 意 先 減 少	人 件 費 増

※ 問題点は、各業種とも3つ選択。

○前年同期比

全業種で見ると、前年同期同様に「諸経費増」がトップとなった。業種別でも製造業・卸売業・サービス業で前年同期同様トップ回答となっており、業界における慢性的な課題となっていることが伺える。

また、建設業では職人のなり手がいないことから「人材不足」、小売業では「同業者間の競合」がそれぞれトップとなっており、他の業種とは異なる結果となった。

※その他及び具体的な業界の問題点の記載事項

- (製造) ○ 建立より撤去が増えている (石材)
- 若者の技能離れ (建設金属)
- (建設) ○ 公共事業の減少 (土木・建築)
- 人材不足 (内線工事)
- 大型物件の減少 技術職員の高齢化と、若年職員資格取得 (電気工事)
- 民間工事物件が足踏み状態 (板金)
- 消費税増税による停滞 (板金)
- (卸売) ○ 値上げにより販売額は増えたが、利益は増えず適正が取れない。(食品)
- 人口減少による消費の減少 (食品)
- 海外工賃等のコストアップ (作業服)
- 小売店の減少と少子化 (玩具)
- 人材の確保と育成 (肥料)
- (小売) ○ 人材教育 (自動車)
- 売上が伸びているときに金融の引き締めだと伸びることが難しい (水産)
- (サービス) ○ 求人を見つけるのが難しい (ホテル【宿泊/宴会】)

※消費税増税の影響についての記載事項

- (製造) ○利益が減り厳しくなる (建設金属)
- (建設) ○影響がある (内線工事)
○だんだん悪影響が出てきている (板金)
○得意先の減少 (建設)
- (卸売) ○増税前と比較すると影響がある (製材)
○実質賃金が上がっていないので伸び悩みがある (作業服)
- (小売) ○生鮮食品に対して増税は厳しい (水産)
- (サービス) ○転嫁が難しい (ホテル【宿泊/宴会】)
○従業員の募集をかけてもなかなか集まらない (清掃)
○原材料費高騰 (飲食)

業 況

※太字アンダーラインは複数企業が回答

- 製造業 ⇒ 好転 (木製建具、木製品、製菓、製麺、一般機械)
悪化 (製材、印刷、ビール、建設金属、石灰製品、ブロック)
- 建設業 ⇒ 好転 (電気工事、内線工事、給排水・冷暖房)
悪化 (土木・建築、土木・とび、板金)
- 卸売業 ⇒ 好転 (作業服、青果、医療・介護、玩具、事務用品、製材)
悪化 (化粧品、米穀、建築金物、建築資材)
- 小売業 ⇒ 好転 (眼鏡、自動車、水産)
悪化 (衣料品、菓子、酒、時計、灯油・プロパン、米穀)
- サービス業 ⇒ 好転 (ホテル【宿泊/宴会】、清掃、飲食、IT)
悪化 (クリーニング)